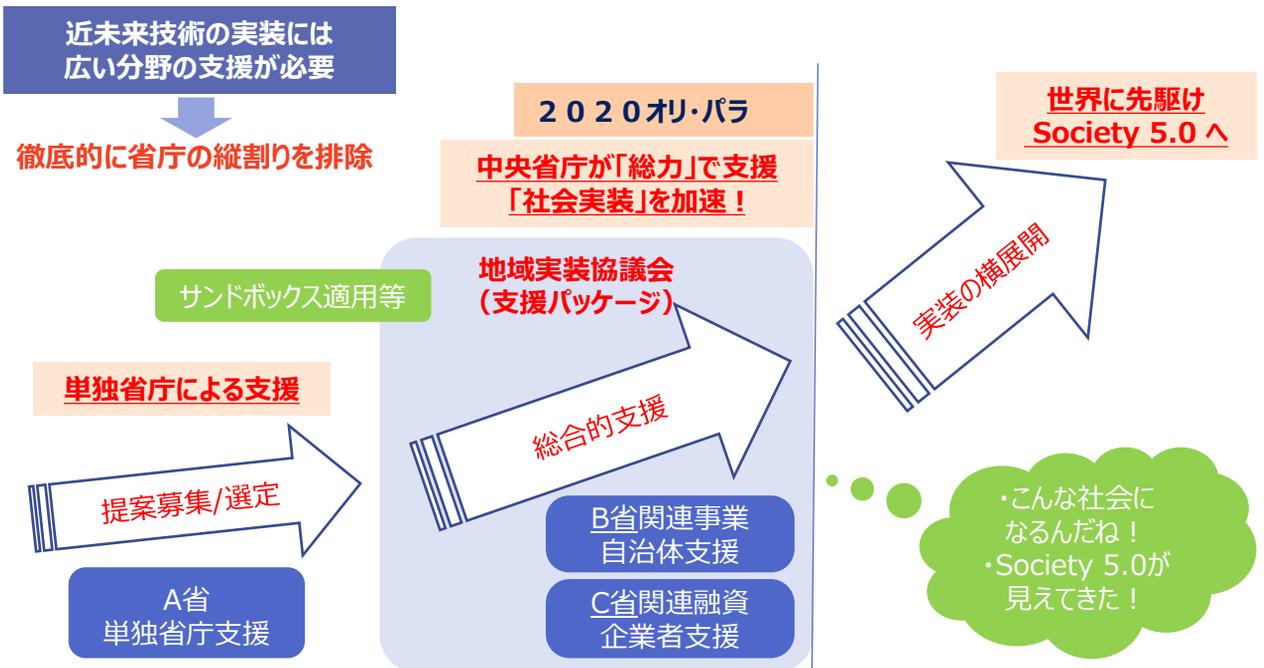


### 事業概要

- 国では、近未来技術の実装による新しい地方創生を目指し、地方創生の観点から革新的で、先導性と横展開可能性等の優れた提案について、各種交付金、補助金等の支援に加え、社会実装に向けた現地支援体制（地域実装協議会）を構築するなど、関係府省庁による総合的な支援を行っています。
- 近未来技術等を活用した地方創生に関する提案を地方公共団体から募集し、平成30年8月に14事業を選定・公表しました。

### 近未来技術等社会実装事業のイメージ



### 近未来技術等社会実装事業の支援体制

- 選定事業毎に、現地（地方公共団体）に地域実装協議会を組織し、社会実装に向けて必要な事項を検討
- 中央に省庁連絡会議を設置し、選定された取組について横断的・集中的に支援

#### 「〇〇地域実装協議会」（事務局：地方公共団体）

都道府県、市町村、総合通信局、地方財務局、地方厚生局、地方農政局、経済産業局、地方整備局、地方運輸局、事業者等（テーマに応じて構成）

##### <協議会の役割>

- (1) ワンストップ支援（制度運用・技術的な助言）
- (2) 関連予算の整合的執行（PDCA管理）
- (3) 事業間の総合的な調整（即地的、個別的調整）
- (4) 関係者の定期的な会合（改善点の特定等）

##### <現地支援責任者の選定>

- (5) テーマに応じて現地支援責任者を選定し、内閣府に併任

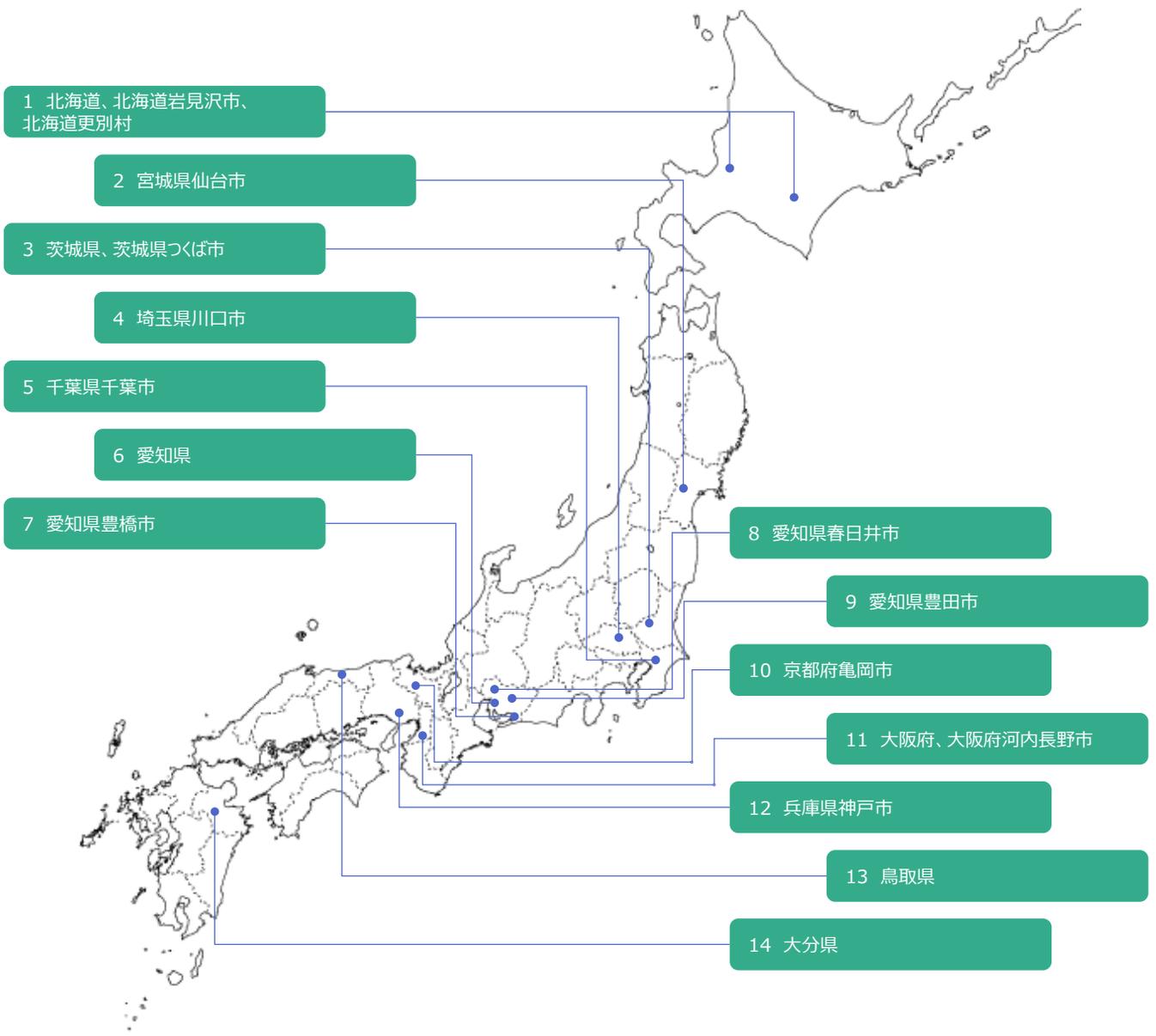
#### 近未来技術実装関係省庁連絡会議（局長級）

内閣府、警察庁、金融庁、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省の地方創生関連部局

#### 幹事会（課長級）

# 1 近未来技術等社会実装事業について

## 平成30年度近未来技術等社会実装事業選定事業



No.	地方公共団体名	事業名
1	北海道、北海道岩見沢市、北海道更別村	世界トップレベルの「スマート一次産業」の実現に向けた実証フィールド形成による地域創生
2	宮城県仙台市	防災・減災分野におけるドローン活用仙台モデル構築事業
3	茨城県、茨城県つくば市	高齢社会の課題を解決する近未来技術（Society5.0）社会実装（自動走行、農業、医療、防災）
4	埼玉県川口市	先端技術体験がもたらす地域振興と人材育成および公共交通不便地域の解消
5	千葉県千葉市	幕張新都心の中核とした近未来技術等社会実装によるユニバーサル未来社会の実現
6	愛知県	「産業首都あいち」が生み出す近未来技術集積・社会実装プロジェクト
7	愛知県豊橋市	近未来技術等を活用した「A I ケアシティ」形成事業
8	愛知県春日井市	高蔵寺ニューモビリティタウン構想事業
9	愛知県豊田市	様々な生活シーンに対応し、社会インフラと協調する、先進モビリティ活用事業
10	京都府亀岡市	亀岡アクティブライフに向けた近未来技術実装事業
11	大阪府、大阪府河内長野市	少子高齢化社会における自動運転技術を活用した新たな移動サービスの創出と健康寿命の延伸 ～社会保障費等の抑制による持続的なまちの発展をめざして～
12	兵庫県神戸市	地域に活力を与える地域交通IoTモデル構築事業 -神戸市における自動運転技術を活用した住み継がれるまちの実現-
13	鳥取県	インフラ情報・管理技術を活用した地域安全マネジメントの展開
14	大分県	遠隔ロボットアバターを通じた世界最先端地方創生モデルの実現

健康寿命	移動革命	ワフライフ
まちづくり	FinTech	SIP等

Robot ,Drone

## ロボット、ドローン

### 事業名

## 世界トップレベルの「スマート一次産業」の実現に向けた 実証フィールド形成による地域創生

### 事業概要

#### ○ロボット農機の社会実装に向けた研究・実証フィールドの形成

- 北大を中心に産学官で研究開発が進められている遠隔監視による無人走行システムの社会実装を実現
- [岩見沢市]地域BWAを利用した稲作へのスマート技術導入に関する実証を実施
- [更別村]村有地の活用、Wi-Fi環境整備により畑作における無人農機等の実証実験を実施



#### ○一次産業分野におけるドローンの活用

- これまでに蓄積した農地のビッグデータを活用し、農業や肥料の散布ソフト（アプリ）を作物に合わせてカスタマイズしながら、ドローン技術と組み合わせる実証実験を実施
- ドローンによる農薬散布自動航行の実証、リモートセンシング技術とAIによる生育状況の把握 等



農地におけるドローン

### 目指す将来像・地域課題

#### 目指すべき将来像

- 近未来技術の活用により、北海道最大の強みである一次産業の生産性や付加価値向上と周辺産業への波及を促し、地域の「稼ぐ力」を高めることにより、北海道ならではの地域創生の実現

#### 解決すべき地域課題

- 北海道において一定の集積がある農作業用機械製造業やIT産業等における近未来技術への対応力強化
- 産業振興に加え、医療・福祉等暮らしの分野でも広く活用が可能な情報通信環境の整備

### 現在の取組状況

#### ロボット農機の圃場内走行・圃場間移動実証

- 圃場内走行に関する実証（実証フィールド内 2018.11～）
- 圃場間移動（実証フィールド内※公道走行なし）に関する実証（2018.11～）

2.4GHz/5GHz帯を利用したロボット農業向け無線システムの周波数有効利用に係る実証試験（岩見沢市）



ドローンセンシング実証実験（更別村）

#### ドローンの自動航行の飛行安全テスト

- 圃場の測量、標準MAP作成、GPS活用による安全確認、距離による目視、映像監視の確認、畑地の高低差影響等



健康寿命	移動革命	ワフライフーン
まちづくり	FinTech	SIP等

Automatic Operation,  
MaaS  
**自動運転、MaaS**

事業名

**高蔵寺ニューモビリティタウン構想事業**

事業概要

○ニュータウン版MaaSの検証に基づく新しいモビリティサービスの社会実装

- 名古屋大学との共同研究により、高齢者の外出支援を目的としたタクシー事業者との連携による新サービス（ユニバーサル（介助）タクシー、乗合タクシー等）や住民共助による移動サービス、自動運転技術による近距離移動など、新たな移動手段に対する以下のような実証実験を推進
  - 既存交通事業者等と連携し、エリア、路線、時間帯等を限定したラストマイル型ゆっくり自動運転（レベル4）や、自宅から福祉施設等の中長距離モビリティサービス（レベル2、3）
  - 統廃合により余剰施設となった旧小学校施設の跡地活用として、民間による生活利便施設の誘導に加え、バス停等モビリティステーションを設置
- 平成29年10月に設置された、春日井市高蔵寺ニュータウン先導的モビリティ検討会議（国立大学法人名古屋大学、トヨタ自動車株式会社、アイサンテクノロジー株式会社、名鉄バス株式会社、春日井市内タクシー組合、高蔵寺まちづくり株式会社、愛知県、春日井市、国交省（オブザーバー））が参画



小型電動自動車（ヤマハカート）



自動運転タクシー

目指す将来像・地域課題

目指すべき  
将来像

- 自動運転車両、パーソナルモビリティ、バス・タクシー等既存交通機関、住民共助型システムによる移動支援など、新たなモビリティサービスと既存交通とのベストミックスを構築し、先進技術による快適なまち「高蔵寺ニューモビリティタウン」を実現

解決すべき  
地域課題

- ニュータウンの高齢化率34%で増加傾向。さらに、坂道や起伏が多い地理的特性により、高齢者等の外出機械が減少
- ニュータウン内の基幹交通である路線バスの運行本数は、平成7年のピーク時と比較して約3/4にまで減少。住民アンケートにおけるバス運行本数や自宅からバス停までの距離（ラストマイル）についての満足度が低下

現在の取組状況

**乗合いタクシー、ボランティア輸送実証実験**

- 高蔵寺ニュータウンにおける高齢者などの交通弱者を主な対象者とした、モビリティの向上を目指した新たなサービス「相乗りタクシー」、「ボランティア輸送」の実証実験を、平成31年1月7日（月曜日）から2月28日（木曜日）の約2か月間実施



タクシードライバーによる配車システムの操作

**高蔵寺ニュータウン周辺エリアにおける交通流動調査**

- 高蔵寺ニュータウン周辺における交通流動の把握を目的に、『Wi-Fiパケットセンサー』を用いた観測調査を実施（平成30年12月中旬～）

**ラストマイル自動運転等実証実験**

- 「ゆっくり自動運転」（低速度・地域限定のドライバーレスによる移動サービスを提供する自動運転）の住宅街・公道における実装実験



ラストマイル自動運転等実証実験の様子

Avatar

## 遠隔ロボットアバター

事業名

### 遠隔操作ロボットアバターを通じた 世界最先端地方創生モデルの実現

#### 事業概要

#### ○遠隔ロボットアバターの観光、教育、人手不足対策等での活用推進と 宇宙利用に向けた拠点形成

##### 【体験型観光におけるアバター活用】

- 県内各地の観光スポットにおいて、遠隔釣り体験等の体験型観光に活用できるアバターを開発し、実際に導入してサービス化を実現

##### 【産業の人手不足対策としてのアバター活用】

- 県内各地の施設や工場等において、遠隔地から専門家や労働者が業務に従事できるアバターを開発し、実際に導入してサービス化を実現

##### 【アバターによる新産業の創造（宇宙におけるアバター利用に向けた研究拠点の整備）】

- 実証実験の成果や宇宙利用の可能性について研究する拠点施設を建設し、アバター開発企業の呼び込みや県内企業のアバター分野進出を推進

##### 【科学技術教育としてのアバター活用】

- 学校における遠隔教育へのアバターの導入



実証フィールドのイメージ（観光）

#### 目指す将来像・地域課題

##### 目指すべき 将来像

- 人口減少時代に対応する、製造業（半導体・自動車等）や観光サービス業など大分県の基幹産業の構造転換と、第四次産業革命の社会ニーズに応える新産業の創出

##### 解決すべき 地域課題

- 人口減少に伴う域内消費縮小への対応、産業の人手不足への対応
- 次代の県経済を牽引する新産業の創出、社会のニーズに応える人材育成

#### 現在の取組状況

##### 移動・コミュニケーションアバターを活用した遠隔見学を実施

##### 【観光】

- うみたまご(大分市)～東京ビックサイト、大分大学医学部附属病院（H30.12/5～7）
- 昭和ロマン蔵(豊後高田市)、ハーモニランド(杵築市)～マレーシア「Japan Travel Fair2019」（H31.1/10～1/13）

##### 【教育】

- 大分県内の小学校3校～JAXA筑波宇宙センター、大分県立美術館（H30.10/4,11）
- 別府支援学校～日本科学未来館（H31.1.21）

##### アバターXコンソーシアムの設立（H30.10月）

- ANA、JAXA、大分県が中心となり、アバターの宇宙関連事業を検討する団体を設立。32者が参加し活動開始



遠隔での観光体験のイメージ